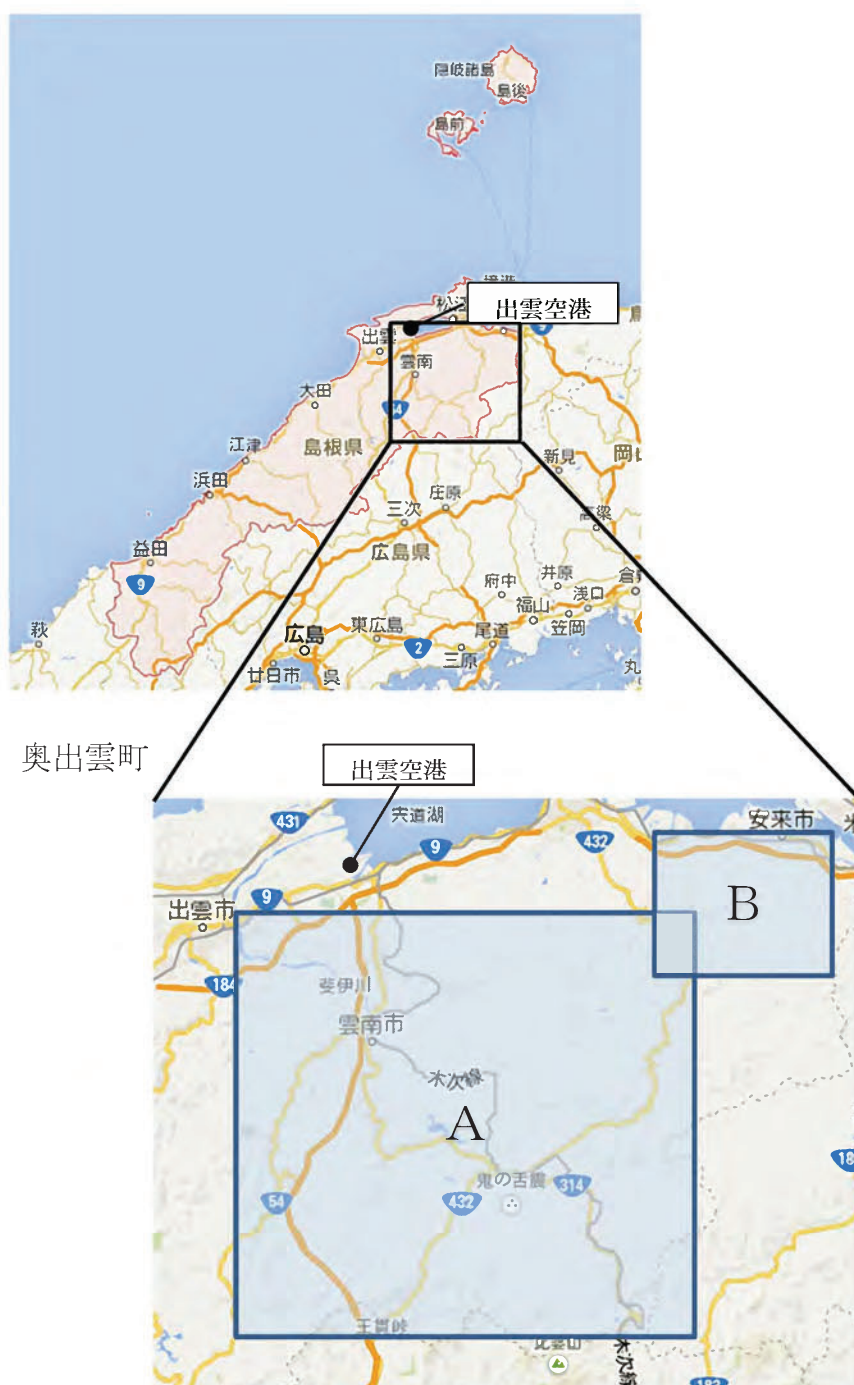


① 申請者	◎雲南市、安来市、 奥出雲町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
いづものくに 出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～			
④ ストーリーの概要(200字程度)			
<p>日本古来の鉄づくり「たたら製鉄」で繁栄した出雲の地では、今日もなお世界で唯一たたら製鉄の炎が燃え続けています。たたら製鉄は、優れた鉄の生産だけでなく、原料砂鉄の採取跡地を広大な稲田に再生し、燃料の木炭山林を永続的に循環利用するという、人と自然とが共生する持続可能な産業として日本社会を支えてきました。また、鉄の流通は全国各地の文物をもたらし、都のような華やかな地域文化をも育みました。</p> <p>今もこの地は、神代の時代から先人たちが刻んできた鉄づくり千年の物語が終わることなく紡がれています。</p>			
			
今も舞い上がり続ける「たたら製鉄」の炎		たたら製鉄が生み出した独特な棚田の景観	
			
全国各地の民謡の影響を受け生まれた「民謡安来節」		たたら製鉄がモチーフともいわれるヤマタノオロチ退治神話を伝える神楽の舞	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名			
電 話	FAX		
E-mail			
住 所			

市町村の位置図（地図等）

雲南市・安来市・奥出雲町は、島根県の東部に位置し、鳥取県と広島県に接する。中国山地に源を発した斐伊川・飯梨川などの流域で、大半が山間地である。それぞれの中心部への鉄道でのアクセスは、安来市は JR 山陰本線安来駅、雲南市は JR 木次線木次駅、奥出雲町は JR 木次線出雲三成駅及び横田駅が最寄りとなっている。また、自動車道でのアクセスは、雲南市は中国横断自動車道尾道松江線の三刀屋木次 IC、安来市は山陰自動車道安来 IC、奥出雲町は中国横断自動車道尾道松江線の吉田掛合 IC 及び高野 IC となっている。また、出雲空港から 3 市町の中心部までは 25 分から 50 分を要する。

島根県



雲南市、安来市、奥出雲町

構成文化財の位置図 (地図等)

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す
(様式 2-1 の番号に対応させること)





ストーリー 「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」

たたら製鉄の幕開け

島根県東部の出雲地方では、約1400年前から「たたら製鉄」と呼ばれる砂鉄と木炭を用いる鉄づくりが盛んに行われていました。天平5（733）年に書かれた『出雲国風土記』には、「この地で生産される鉄は堅く、いろいろな道具をつくるのに最適である」と、生産される鉄の優秀性が語られています。そして、江戸時代後半から明治にかけての最盛期には、全国のおよそ8割の鉄が、当地を中心とした中国山地の麓でつくられていました。

なかでも奥出雲地域には、たたら製鉄の原料となる良質な砂鉄を含む花崗岩（真砂土）が広く分布し、燃料の木炭を得るための森林も広大であったため、これらの資源を求めて製鉄技術者が多数集まってきました。この歴史を象徴するのが、鉄づくりの神「金屋子神」が白鷺に乗ってカツラの木に舞い降り、製鉄の技術を授けたとする金屋子神話です。今日、「金屋子神社」の総本社がこの地に鎮座し、鉄づくり発祥の地として篤く信仰されています。

たたら製鉄を支える人々と環境

奥出雲を訪れると、豊かな山林に抱かれた広大な棚田が点在し、その棚田の中にポツンポツンと“こぶ”のような小山がある光景に気が付きます。これは山を切り崩して土砂を水路に流しながら砂鉄を採取する「鉄穴流し」が行われた際に、鎮守の杜や墓地など神聖な場所を削らずに残したものです。鉄づくりには、想像を絶する多くの山を切り崩すほど大量の砂鉄が必要でしたが、その跡地はそのまま放置されることなく、鉄穴流しで使用した溜め池や水路を利用して計画的に農地に再生し、1km以上も続く棚田の景観を至る所に生みだしました。さらに、砂鉄を採取した残りの土の大半は下流域に堆積して、現在の出雲平野や安来平野など、広大な穀倉地帯を形成したのです。また、かつて木炭を焼くための山林は大規模に伐採されましたが、永続的に炭焼きができるように約30年周期の輪伐を繰り返し、循環利用してきました。この結果、奥出雲の山々にはブナ林をはじめとする自然豊かな森が多く残り、四季折々の彩を見せて人々の心を癒してくれています。

鉄穴流しで採取した砂鉄と山林で焼いた木炭は、「山内」と呼ばれる製鉄工場に集められました。山内は、たたら製鉄の従事者だけで構成される100人から200人規模の小さな鉱山町で、カツラの木をご神木として金屋子神を祀り、住居と製鉄施設を構えていました。鉄師（たたら経営者）は、町から離れた清流沿いの谷あい独立した山内集落をつくることによって、その技術を継承し、たたら製鉄を守ってきました。

このように、たたら製鉄は、山内を中心として原料と燃料を継続的に手に入れられるとともに、“人”と“自然”とが共生する持続可能な産



神秘的な炎を舞い上げる たたら製鉄



広く信仰を集める金屋子神社（総本社）



棚田に小山が点在する奥出雲の独特な景観



想像を絶する山々を切り崩した「鉄穴流し」



操業当時の姿が残る菅谷たたら山内

業であったと言えます。

たたら製鉄によりもたらされた文化・産業

奥出雲で生産された鉄は次から次へと牛馬や川舟によって安来などの港へ運ばれ、北前船交易の主要な荷として全国各地へ送り出されました。港と奥出雲を結ぶ街道は鉄輸送によって人の往来が増え、街道筋の宿場町や温泉は大いに賑わいました。港町・安来は、鉄の集積地として人々が交わる拠点となり、各地の船頭が唄う民謡などの影響を受けて「民謡安来節」が生まれ、ユニークな「どじょうすくい踊り」とともに全国に知られています。

また、鉄の交易によって多くの富とさまざまな文化が集まりました。製鉄業で財をなした鉄師たちは、収める品ごとに数多くの土蔵を建て、都で見られるような豪華な茶室や庭園を自邸に構えて「不昧」と号した松平治郷をはじめとする歴代松江藩主をもてなしました。労働者たちは、鉄師から聞いた京都の「祇園祭り」の様子を模して、太鼓を叩く稚児を乗せた山車が練り歩く「大呂愛宕ばやし」を思いつき、ハレの日を演出して楽しみました。

一方、農村部では、鉄穴流しで大規模に切り崩した跡地にまず蕎麦などの種を蒔いて土をつくり、その後、稲を植えて、広大な棚田をつくりあげました。このようにして生産された蕎麦は幕府にも献上され、良質米は大阪に送られるほど高い評価を受けました。

たたら製鉄は、単に鉄をつくっただけでなく、地域産業の発展を支えながら、格調高い文化を育てていったのです。

たたら製鉄が紡ぐ持続可能な社会

出雲地方は、スサノオのヤマタノオロチ退治神話の舞台でもあります。現在も伝承地が点在し、各地で舞われる神楽が神代の世界を伝えています。この神話に登場するヤマタノオロチを、砂鉄採取の影響で氾濫する川になぞらえ、退治したオロチから取り出された剣を製鉄の象徴に、イナタヒメは砂鉄採取の跡地に拓かれた稲田に見立て、「たたら製鉄の歴史」と重ね合わせながら語り継がれてきました。

たたら製鉄は、産業としては100年ほど前に終焉を迎えましたが、その技術は今も絶えることなく世界で唯一この地で伝承されています。流通の拠点として賑わいを見せた港町は今や全国有数のハガネの産地へと発展し、たたら製鉄の技術を受け継ぐ高級特殊鋼「ヤスキハガネ」が現代の“ものづくり”を支えています。また、鉄穴流しにより拓かれた耕作地では全国に名高い「出雲そば」や「仁多米」を育み、多くのファンを魅了しています。

今もなお、この地は先人がたたら製鉄千年の歩みの中で生み出した特徴豊かな地域の文化と産業、自然景観に満ち溢れ、終わることのない物語を紡ぎ続けています。



全国に知られる安来節とどじょうすくい踊り



不昧公も愛でた鉄師の庭園で行われる茶会



鉄師が京都から持ち帰り 300年続く伝統芸能



ヤマタノオロチ退治の神話を伝える神楽



今も残る 鉄師が暮らした街並み

ストーリーの構成文化財一覧表 (雲南市、安来市、奥出雲町)

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地(※4)
1	菅谷たたら山内	国指定重要 有形民俗文化財	操業当時の姿が世界で唯一現存する「菅谷たたら山内」は、たたら製鉄によって隆盛を極めた往時を彷彿とさせる。映画「もののけ姫」の〈タタラ場〉のモチーフとなったことでも知られ、“本物”だけが持つ独特の空間と周囲の景観は、訪れる者を圧倒する。ここは、たたら製鉄に従事した職人やその家族たちの生活や息遣いを、時空を飛び越えて体感することができる稀有な場所である。	雲南市
2	萱ノ鉄穴場跡	未指定 史跡	「菅谷たたら山内」の経営者・田部家に残る古絵図(明治初年頃か)にも記される鉄穴場で、切羽(採掘場)、走り(水路)、選鉱施設のすべてが現存する。菅谷たたら山内と合わせて見学することで、原料砂鉄の採集から製鉄に至る一連の工程を理解することができる。	雲南市
3	田部家土蔵群と吉田の街並み ・鉄の歴史博物館 ・大鍛冶屋跡	未指定 文化的景観	松江藩鉄師頭取・田部家のもとで「企業城下町」として栄えた吉田の街並みは、自然の地形を利用しながら機能的に作られている。土蔵群に代表される田部家本宅を中心とした有力者が住む木町通り、寺院が立ち並ぶ山側エリア、飲食、日用品店、小鍛冶屋などサービス機能を持つ川原町筋、吉田川を挟んだ反対側は大鍛冶場や職人の長屋がある鍛冶屋原。それぞれの異なるエリアが小路を通じて有機的に結びついており、今でも往時の面影を垣間見ることができる。	雲南市
4	菅谷 鑪製鉄用具 141点	県指定有形 民俗文化財	「菅谷たたら」で用いられた製鉄用具。各操業工程の道具が残っており、たたら製鉄の作業を具体的に示す。道具の使用痕や傷を通して、当時の製鉄現場での熱気や職人たちの息遣いを感じることができる。「鉄の歴史博物館」で常時観覧可能。	雲南市
5	大鍛冶屋道具 10点	市指定有形 民俗文化財	火箸やアテガネ(地金を鍛錬するときに使う台)など大鍛冶職人が使っていた道具。現在では失われた大鍛冶技術を理解するうえで貴重な資料群。「鉄の歴史博物館」で常時観覧可能。	雲南市
6	槻の屋神楽 大原神職神楽	県指定 無形民俗文化財	当地方が舞台となるヤマタノオロチ退治神話では、「ヤマタノオロチ」は、砂鉄採取の影響でたびたび氾濫する「斐伊川(ひいかわ)」をイメージし、オロチの尾から顕出した「天叢雲剣(あめのむら	雲南市

	<p>うしおさんのうじかぐら 海潮山王寺神楽</p>		くものつるぎ)」はたたら製鉄によって生まれる日本刀を象徴し、「イナタヒメ」は砂鉄採取の跡地に拓かれた稲田に見立てられて伝えられる。これを現代に伝承する神楽の世界は、たたら製鉄が当地の生活・文化と切り離すことのできないものであったことを表している。	
	<p>うしおじんだいかぐら 海潮神代神楽</p> <p>ひのぼりかぐら 日登神楽</p> <p>きせかぐら 佐世神楽</p>	市指定 無形民俗文化財		
7	<p>りゅうずたき 龍頭が滝</p> <p>やえだき 八重滝</p>	県立自然公園 日本の滝百選	たたら製鉄と「水」との関わりは深い。たとえば、砂鉄採集のための鉄穴流しには大量の水を必要とし、鉄塊を細かく砕く錘を持ち上げ、炉へ風を送るには水車を動力源としていた。現在、景勝地として知られる両瀑布の近くには、鉦跡（八重滝鉦跡）や鍛冶屋跡（滝谷鍛冶屋跡）が存在し、自然環境を十分に利用した「たたら経営」が行われていたことをうかがわせる。	雲南市
8	<p>かなごじんじや 金屋子神社</p>	県指定 有形文化財	たたら神様「金屋子神」を祀る金屋子神社の総本社。たたら製鉄盛行情期の江戸時代後期には中国山地一帯に広範な信仰圏を築いた。金屋子神は現在も鉄の祖神として鉄産業に関わる人々の尊崇を集めている。	安来市
9	<p>金屋子神社と にしひだ 西比田の町 ・市原たたら（未指定史跡）</p>	未指定 文化的景観	能義郡と仁多郡を結ぶ街道沿いに位置する西比田の町は、たたら製鉄の発展とともに金屋子神社参拝の拠点として賑わいを見せた。参道の起点に立つ石灯籠が往時を偲ばせる。また、この地の市原たたらは神社にちなんで金屋子たたらとも呼ばれ、江戸後期から大正末期まで操業された。	安来市
10	<p>たまはねはせいぞう 玉鋼製造 (たたら吹き) 伝承</p>	国選定 保存技術	1300年間にわたり連綿としてこの地の職人だけに継承される世界唯一の製鉄法。炎が燃え上がる様子は、金屋子神の存在を感じさせるほど神秘的であり、職人の卓越した技術により執り行われる作業は今日の先端技術でも説明できないほど緻密なものである。まさに、ものづくりの原点であり、世界に誇る日本の技である。	奥出雲町
11	<p>たけざき 竹崎のカツラ</p>	国指定 天然記念物	鉄の神様金屋子神が宿るとされるカツラの木は赤く芽吹き、その後、緑色、黄色へと葉の色が変化する。新芽が赤く染まるのは、たたら製鉄の火入れにかかる日数と同じ三日三晩だと言われる。赤く燃えるように天へ向かって伸びる新芽はたたら赤い炎をイメージさせ、製鉄のご神木として保護されてきた。我が国の自然崇拝の文化と、人と自然との共生の精神を垣間見ることができるたたら製鉄のシンボリック的存在である。	奥出雲町

12	奥出雲たたら製鉄 及び棚田の文化的景観	国選定重要 文化的景観	たたら製鉄に用いる砂鉄を採取した鉄穴流しの跡地は、棚田として整備され今に輝きを放つ。この棚田が、米どころの西の横綱として「仁多米」を生み、多くの食通をうならせている。先人が成し得た文明と自然との共生というストーリーを今日に伝える象徴である。	奥出雲町
13	鳥上木炭銑工場角炉	国選定 重要文化的景観 国登録 有形文化財	たたら製鉄技術を受け継いだ角炉が残されており、製鉄の近代化を物語る建造物。ほぼ完全な形で保存されている角炉は、たたら製鉄の近代化を知るうえで、欠くことのできない遺産である。	奥出雲町
14	櫻井家住宅	国選定 重要文化的景観 国指定 重要文化財	たたら製鉄で財をなした鉄師頭取の住まい。贅を凝らした佇まいは、往時の松江藩主・松平不昧公の御成の際の本陣宿をつとめ、以後藩主が六度も訪れたという。戦国の世を潜り抜けて財を築いた櫻井家の歴史と、たたら製鉄の繁栄ぶりを物語る建造物である。	奥出雲町
15	絲原家住宅	国選定 重要文化的景観 国登録 有形文化財	たたら製鉄で財をなした鉄師頭取の住まい。元はたたら製鉄の原料である砂鉄を採取した場所を出雲流庭園として築庭している。贅を凝らした佇まいは、松江藩主のほか国内外の文化人も多く訪れたとされ、彼らによりもたらされた数々の文物は、たたら製鉄の繁栄ぶりを物語る。	奥出雲町
16	鬼舌振	国名勝及び 天然記念物	出雲国風土記に玉日媛命の伝承を残し、かつて木炭を焼く鉄山林であった。鉄師絲原家の招きで与謝野鉄幹・晶子夫妻などの文人墨客が訪れるなど、たたら製鉄と繋がりのある名勝地である。	奥出雲町
17	陰地たたら跡	国選定 重要文化的景観 県指定史跡	中世から近世にかけてのたたら製鉄技術の変遷を理解する上で欠くことのできない遺跡である。	奥出雲町
18	羽内谷鉦山 鉄穴流し本場	国選定 重要文化的景観 町指定 有形民俗文化財	砂鉄採取をする鉄穴流しの最終工程の遺構で、巧みに水流で比重選鉦する鉄穴流しの技法を知ることのできる設備である。	奥出雲町
19	旧下蔵氏庭園	国選定 重要文化的景観 町指定名勝	スサノオが降臨した船通山を仰ぎ見る庭園。たたら製鉄で財を成した鉄師の佇まいを物語るもので、庭園師重森三令も絶賛した。神話とたたらを重ね合わせ、悠久の時を感じさせる。	奥出雲町
20	原たたら (叢雲たたら) 跡	国選定 重要文化的景観 町指定史跡	たたら山内の遺構がほぼ完全な形で残る。昭和52年に、たたらを復活させた安部由蔵村下が操業した鉦で、たたら聖地である。	奥出雲町
21	槇原たたら角炉	国選定 重要文化的景観	角炉は、たたら製鉄から近代化を凶った我が国独特の技術を示す重要な遺構である。ほぼ完全な形に復元された近代化遺産である。	奥出雲町

22	ト蔵新田 ト蔵新田	未指定 名勝	享保6(1721)年に奥出雲の鉄師ト蔵家から現在の安来市荒島町に分家したト蔵孫三郎は、日白地区をはじめとする各地で砂鉄採取の「鉄穴流し」の手法により水田を造成した。たたら製鉄の技術が現在の当地の農業を育んできたという歴史を体感できる。	安来市
23	たたら製鉄用具 250点	国指定重要 有形民俗文化財	製鉄炉に風を送る装置「天秤鞆」をはじめ、砂鉄採取、築炉、製錬、選鋼など、たたら製鉄の作業を具体的に知ることでできる用具250点。身近な樹木を加工して作られており、その形状や重さなどに、先人の工夫と自然との共生を知ることができる。和鋼博物館で観覧可能。	安来市
24	日本刀 小林貞俊・小林力夫	県指定 無形文化財	「サムライの魂」と言われる日本刀の鍛錬を実演公開している刀匠。奥出雲の地でたたら製鉄により生み出された玉鋼は、同じく奥出雲の匠により日本刀へと姿を変える。職人から職人へと玉鋼(モノ)をつないで、一本の刀(逸品)をつくっていくシステムは、たたら吹きと併せて日本のものづくりの原点と言える。	奥出雲町
25	たたら絵巻 「玉鋼縁起」	市指定文化財	安来出身の画家松本春々が昭和21年に制作した幅30cm、長さ55mに及ぶ、たたらへの守護神「金屋子神」の降臨から始まり、神話や伝承の中の鉄文化、たたらへの歴史的変遷、作業や設備・道具、そして安来がたたらへの伝統を受け継ぎ近代に特殊鋼の生産拠点に成長する過程を、水墨淡彩の軽妙な筆使いで表現している。和鋼博物館のビデオモニターで観覧可能。	安来市
26	安来港と安来の 街並み ・旧雲伯鉄鋼合資会社 ・山常楼(国登録有形文化財) ・並河家住宅(県指定有形文化財)	未指定 文化的景観	江戸時代から明治時代にかけて、安来は周辺の山間部で生産された鉄を北陸や関西へと運ぶ鉄の積出港として栄えた。その後、明治後期には地元資本の会社がたたら製鉄の伝統技術を近代製鋼技術に発展させ、良質の鉄鋼を生産するようになった。安来の港と街並みは、商いの町から鉄鋼生産の町へと歩んできた「ハガネの町安来」の歴史を物語っている。	安来市
27	民謡安来節	市指定 無形文化財	安来節は鉄の積出港として栄えた安来で生まれた民謡。その歌詞には鉄の運搬の様子など鉄に関連した内容が随所に唄い込まれている。軽快な歌声は港町の賑わいに花を添えた。	安来市

28	飯梨川と赤江の新田 開発	未指定 文化的景観	安来市広瀬町から安来平野を経て中海へ注ぐ飯梨川。上流部の布部、山佐などでは江戸時代から「鉄穴流し」による砂鉄採取が行われた。その土砂は下流域の扇状地に何度も洪水をもたらし、長い年月をかけて安来平野を形成してきた。とりわけ赤江地区ではその土砂を利用して大規模に新田開発が行われた。たたら製鉄は現代の我々にも恵みを与えている。	安来市
29	大呂愛宕ばやし	未指定 無形民俗文化財	鉄師ト蔵家がもたらした、300年の歴史を持つ祭り。労働者とたたら経営者との結びつきと、たたら製鉄と地域文化のつながりを理解できる伝統芸能である。	奥出雲町
30	竹崎十七夜	未指定 無形民俗文化財	鉄師ト蔵家がもたらした祭り。火伏の神である秋葉大権現を祀る伝統芸能。火を操るたたら製鉄と地域文化及び信仰を知るうえで重要な行事である。	奥出雲町

※複数ページにわたっても可

構成文化財の写真一覧

①菅谷たたら山内



(撮影：繁田 諭)

②萱ノ鉄穴場跡



③田部家土蔵群と吉田の街並み



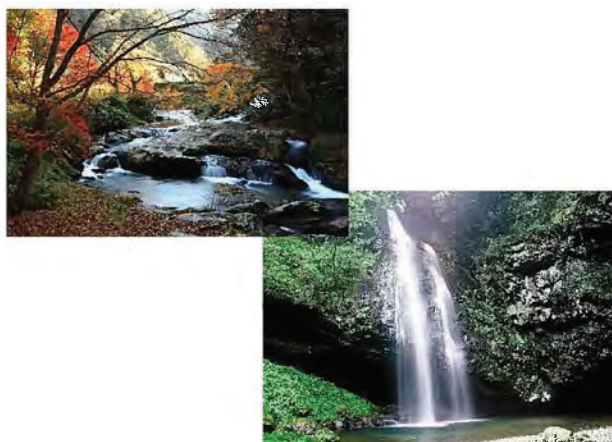
④菅谷鑪製鉄用具、⑤大鍛冶屋道具



⑥槻の屋神楽、大原神職神楽、海潮山王寺神楽、
海潮神代神楽、日登神楽、佐世神楽



⑦龍頭が滝、八重滝



⑧ ^{かなやご}金屋子神社



⑪ ^{たけざき}竹崎のカツラ



⑨ ^{にしひだ}金屋子神社と西比田の町



⑫ 奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観



⑩ ^{たまはがわ}玉鋼製造 (たたら吹き) 伝承



⑬ ^{とりかみもくたんせんこうじょうかくる}鳥上木炭銚工場角炉



⑭ きくらいけ 櫻井家住宅



⑰ おん影 陰地たたら跡



⑮ 絲原家住宅



⑱ はないでにこうざん 羽内谷鉾山 かんなな影 鉄穴流し本場



⑲ おにのしたがる 鬼舌振



⑲ ほくら 旧卜藏氏庭園



⑳ ^{はら}原たたら (^{叢雲}たたら) 跡



㉓ たたら製鉄用具 250点



㉑ ^{まきはら}横原たたら ^{かくろ}角炉



㉔ 日本刀 (^{こばやしきだとし}小林貞俊 ・ ^{こばやしりきお}小林力夫)



㉒ ^{ぼくら}卜蔵新田



㉕ たたら絵巻 「 ^{たまはしおんぎ}玉鋼縁起 」



写真は「たたらの実況」

やすぎ やすぎ
②⑥ 安来港と安来の街並み



おしろあたご
②⑨ 大呂愛宕ばやし



やすぎ祭
②⑦ 民謡安来節



たけざまじゆうしちや
③⑩ 竹崎十七夜



いなし あかえ
②⑧ 飯梨川と赤江の新田開発



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
034	出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～

(1) 将来像 (ビジョン)

【地域の将来像】

たたらファンとともにつくる持続可能な地域

【将来像設定の背景】

日本遺産「出雲國たたら風土記」は、当圏域が古くから伝統的製鉄技術たたら製鉄で栄えてきたこと、また、自然と共生した砂鉄採取や木炭生産の営みの結果として形成された景観や文化が、現在も息づいていることを描いた物語である。

たたら製鉄の歴史を刻む景観や文化は、圏域の人々の何気ない日常の暮らしによって維持される動的な地域資源である。しかし、当圏域では人口減少が急速に進んでいる。人口減少が進めば、景観や文化の維持が困難となり、結果として日本遺産の価値も損なわれかねない。

このため当圏域は、地域経済を活性化し、住民が暮らし続けられることを目的として、日本遺産を活用した観光振興に取り組む。そして、この目的の達成のため、観光振興により地域経済や暮らしを維持する好循環と、ファンがファンを呼ぶ好循環の2つの好循環の実現に取り組む。

●観光振興により地域経済や暮らしが維持される好循環

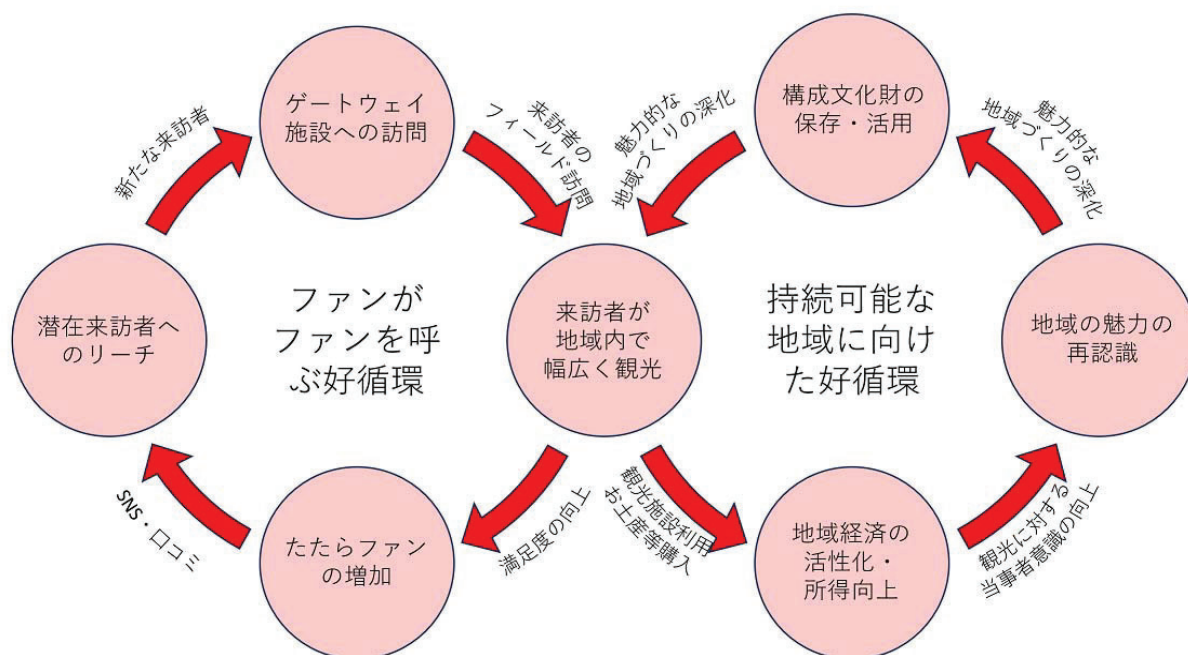
景観や文化等の日本遺産を構成する文化財が保存・活用される好循環を生み出すとともに、取り組みを通じた圏域の住民による地域の魅力の再認識と、定住意識の向上を図る。

●ファンがファンを呼ぶ好循環

圏域の観光消費額の合計は「来訪者数×来訪者一人あたり観光消費額」である。小規模な宿泊施設が多く観光キャパシティが大きい当圏域では、来訪者数の急拡大を目指すことは難しく、一人当たり観光消費額を伸ばす方向に重点を置くことが望ましいと考えられる。また、インターネットの普及により関心が多様化する現在においては、来訪者からのSNSや口コミを通じた認知の拡大が、新たな来訪者の掘り起こしに有効であると考えられる。そこで、当圏域で特に呼び込みたい来訪者として、ストーリーを高く評価し、繰り返し来訪して関連商品やサービスを購入していただくとともに、SNSや口コミで魅力を拡散する個人旅行者を想定する。そのような来訪者を「たたらファン」と位置づけ、ファンがファンを呼ぶ好循環を創出する。

上記の2つの好循環が生み出され、地域経済の活性化と暮らしの維持・継続という目的が達成された状態が、長期的な見地に立った将来像「たたらファンとともにつくる持続可能な地域」である。

たたらファンとつくる持続可能な地域



【上位計画への位置づけ】

▼安来市：「第2次総合計画」（後期：令和2～7年度）では、日本遺産を活用した取り組みの推進を掲げ、たたら製鉄文化の調査研究・活用、関係機関と連携した情報発信を取り組むとしている。安来港や街道による和鉄の集散地であったことに関連付け、ゆかりのある他の日本遺産認定地との連携を深めるなど、日本史を語る壮大なストーリーへと発展させながら情報発信を深化させていく。

▼雲南市：「第2次総合計画」（後期：令和2～6年度）を受けた「第2期雲南市観光振興計画」（令和3～7年度）では、観光の強みと追い風を活かし積極的な取り組みを掲げつつ、観光の柱のひとつである「たたら」が育んだ歴史や伝統、食などを積極的に活用した魅力創出に取り組むとしている。

国内で唯一残る高殿及び山内を核にした「たたら」のまちづくりを官民共同で進めるにあたって、日本遺産というブランド力を活用しながらその魅力を高め、国内外に情報発信することによって誘客を推進していく。

▼奥出雲町：「第2次総合計画」（令和3～12年度）では、観光振興の10年後の目指す姿を、たたら製鉄や自然景勝地などの観光資源を活かした、魅力ある観光サービスを充実させるとともに、近隣自治体との広域連携や情報発信を強化し選ばれる観光地とし、たたら製鉄、美肌観光、神話、自然景勝地、歴史、文化農林業、食などの地域資源を活かした滞在型・体験型の観光商品の充実に努めるとしている。

現在でもたたら操業が行われている稀有な地（日本遺産：日刀保たたらなど）として、日本農業遺産「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」や玉鋼を活用した「奥出雲たたらブランド認証制度」といった取り組みによる地域活性化に取り組んで行く。

以上のように、2市1町が日本遺産を活用しながら、三位一体となり協働で取り組むことで相乗効果を発揮し、それぞれ掲げる理念の実現を目指していく。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：日本遺産のストーリーについて理解・関心を深めた来訪者の割合

年度	実績（人）					
	2022	2023	2024			
数値	21,206	27,715	27,049			
年度	目標（人）					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	27,250	27,500	27,750	28,000	28,250	28,500
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートウェイと位置付けている主要施設3館の入込客数とし、島根県観光動態調査（各年1月～12月）の報告数値を設定する。和鋼博物館（安来市）、菅谷たたら山内（＝山内生活伝承館を含む）（雲南市）、奥出雲たたらと刀剣館（奥出雲町） ・2024年の入館者数27,049人を基準とし、2030年までに約1,500人の増加を目指す。 					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：地域のことについて調べたり、調べたことを発表したりするなどの学習に取り組んでいると回答した児童の割合

年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	63.9%	58.7%	47.9%			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	70.0%	72.0%	74.0%	76.0%	78.0%	80.0%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<ul style="list-style-type: none"> ・持続化のためには未来を担う子どもたちの関心の高まりが重要である。圏域内の児童生徒は「ふるさと教育」等で日本遺産構成文化財を学んでおり、その定着度合いを計る。 ・島根県学力調査における、「地域のことについて調べたり、調べたことを発表したりするなどの学習に取り組んでいると回答した児童の割合」（小学6年生：質問紙調査より）。 					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：ゲートウェイ3館の入場料等収入総額						
年度	実績（千円）					
	2022	2023	2024			
数値	10,014	11,725	11,386			
年度	目標（千円）					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	11,505	11,610	11,715	11,820	11,925	12,030
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産への関心の高まりによって書籍やグッズなどの関連商品の購買意欲が高まることが予想される。 ・和鋼博物館、たたらと刀剣館、菅谷たたらの入場料、売店販売、体験料等の総合計額とする。 ・2024年を基準とした11,400千円に対し2030年までに目標①入館者数28,500人に準じた売上げ12,030千円を達成する。 				

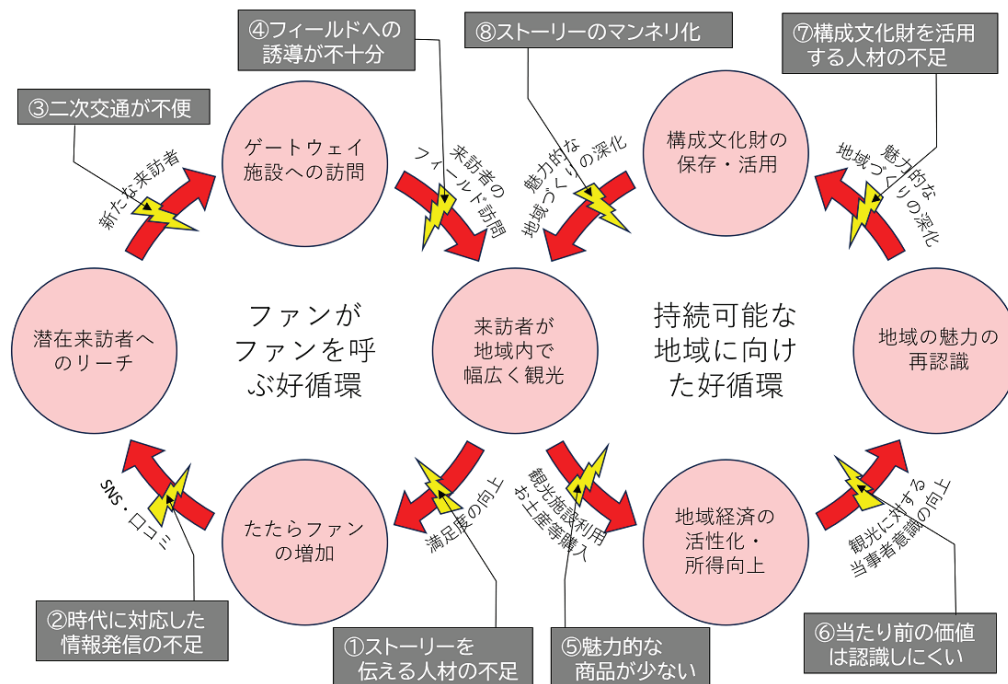
目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産関連事業の協力団体数						
年度	実績（団体）					
	2022	2023	2024			
数値	66	68	76			
年度	目標（団体）					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	79	82	85	88	91	94
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の住民や団体、事業者の協力が不可欠であり、その連携度合いを測るため、事業実施の連携・協力団体（者）数を設定。 ・各市町において1団体/年の増を目指す。 ・たたらを活用したプロジェクトや事業参加団体（者）数をカウントする。 ・2024年を基準とし2030年までに18団体増加させる 				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の宿泊者数						
年度	実績（人）					
	2022	2023	2024			
数値	82,688	88,187	81,725			
年度	目標（人）					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	84,700	87,700	90,700	93,700	96,700	99,700
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		<ul style="list-style-type: none"> ・鉄の道文化圏推進協議会構成自治体（2市1町）の宿泊客数 ・島根県観光動態調査（各年1月～12月）における宿泊客数の数値を引用する。 ・2024年の81,700人を基準とし、2030年までに18,000人増加させる 				

(3) 地域活性化のための取組の概要

将来像に到達するための好循環を生み出すにあたり、特にボトルネックとなる要素を抽出し、解消に向けて重点的に取り組む。

将来像実現に対するボトルネック



① ボランティアガイドの活躍の場の拡大と人材確保

【現状と課題】

これまでもボランティアガイドの育成を進めてきたが、若いガイドが少ないこと、講習の受講者数に比して実際にガイドとして活動する人材が少ないなどの課題がある。これは、ガイドが活躍できる場が少ないため、やりがいを感じにくいことに一因があると考えられる。

【対策と取組】

- ・ ゲートウェイ施設3館の来訪者に対する説明員としてボランティアガイドにも活躍いただくなど、ボランティアガイドの活躍の場を増やす。
- ・ ガイド付きタクシープランを造成する。
- ・ 社会人を対象とした学習の場を提供し、圏域住民のストーリーへの理解を促進することで、ボランティアガイド候補の裾野を広げる。

② インターネット時代に対応した情報発信による新たな来訪者の発掘

【現状と課題】

これまで、パンフレットの作成や、マスメディアへの素材提供を通じた情報発信を行ってきたが、インターネットの普及により無数の情報が氾濫し、関心が多様化する現在においては、情報に注意を向けただく難易度が上がっている。

【対策と取組】

- ・ 圏域住民や当圏域のファンが、日本遺産に関する信頼性の高い情報を口コミやSNSで発信することを支援し、潜在来訪者が圏域情報に触れる機会を増やす。

③ 個人旅行者の移動手段を確保する

【現状と課題】

当圏域は安来市中心部を除き二次交通が不便で、自動車を利用しない個人旅行者が訪れにくい。また、圏域内においても、日本遺産の構成文化財が広範囲に分散しているため、自動車がなければ構成文化財を幅広く見学することができない。結果として、個人旅行の需要が十分に取り込めていない。

【対策と取組】

- ・ 観光タクシーを利用いただくなど、移動手段の確保を図る。
- ・ 当圏域が広島県や鳥取県に隣接していることを活かし、近隣市町からのレンタカー利用による来訪手段の案内を改善し、レンタカー利用による来訪を推進する。

④ 来訪者がフィールドを回り圏域の魅力を深く感じられるようにする

【現状と課題】

当圏域のストーリーには、たたら製鉄が栄えたこと、たたら製鉄の営みの結果として棚田が形成されたことなど、圏域の魅力を深く理解するのに十分な説明を必要とする内容も多い。一方で、当圏域の魅力の本質は、圏域内に広範囲に分散する景観や文化であり、来訪者がフィールドを巡ってこそ十分に魅力を伝えることができる。このため、ゲートウェイとなる文化施設で導入を理解した後に、周囲のフィールドをめぐり景観や文化を体験していただいてこそ当圏域の魅力を深く感じて頂けるが、現状ではゲートウェイからフィールドへの誘導が不十分となっている。

【対策と取組】

- ・ ゲートウェイ施設と位置づける3施設「和鋼博物館」「菅谷たたら山内」「奥出雲たたらと刀剣館」から、圏域内に点在する構成文化財へ誘導できるよう、日本遺産ストーリーの解説板やモデルルート、関連情報等を展示する。
- ・ 3施設を起点に、サブストーリーを活用したモデルコースをつくり、来訪者への提案、誘導を図る。また、ゲートウェイ機能を補完するため、プロデューサーやプレイヤーの活用と連携を図る。

⑤ 商品力・サービスを向上する

【現状と課題】

現在の消費行動は、人々の物質的な充足に伴いモノ消費からコト消費へ変化しており、コモディティ化した商品やサービスの販売は難しい時代となっている。しかし圏域内で観光客向けに販売される商品は従来型のものが多い。

【対策と取組】

- ・ 日本遺産を活用したアクティビティ（サイクリング等）や体験型コンテンツ（ミニたたら操業等）を、民間事業者や住民団体等の活動支援を行いながら充実する。
- ・ 当圏域への訪問体験と関連付けた特別感が感じられる新商品の開発や既存商品の改良を行う。たとえば、たたら関連商品（玉鋼を利用した商品、たたら焔米、仁多米）について、プロモーションを支援する。また、奥出雲町では「奥出雲たたらブランド認証制度」により、玉鋼を主材料とする製品を認証し、価値を広く発信する。
- ・ ゲートウェイ施設における物販コーナーの拡充、および、ゲートウェイ施設から民間博物館や店舗などへの送客など、来訪者が商品に接するタッチポイントの増加を図る。

⑥ 圏域住民が日常の暮らしの価値を再認識できるようにする

【現状と課題】

当圏域のストーリーの魅力である、たたら製鉄によって生み出された景観や文化は、圏

域の人々の何気ない日常の暮らしによって維持される動的な地域資源である。しかし、日常の暮らしは、圏域に暮らす住民にとっては当たり前であるため、価値が伝わりにくい面がある。

【対策と取組】

- ・ 教育機関と連携しながらスタートアップ期間に整備した媒体（DVD・紙芝居・児童書）を活用し、ふるさと学習を強化する。また、学校教育で用いる教材を作成し、児童・生徒の理解深化を図る。
- ・ 社会人を対象とした学習の場を提供し、圏域住民のストーリーへの理解を促進することで、圏域に関する愛着の深化を図る。

⑦ 日本遺産を活用するプロデューサー・プレイヤーの発掘

【現状と課題】

圏域には、ストーリーに価値を見出し、活用に取り組む人材がいるが、相互の連携が弱く十分なシナジーがない。また、まだ把握されていない人材がいる可能性がある。

【対策と取組】

各分野において既に地域で活躍しているプロデューサー・プレイヤーを把握し、連携を深めることでシナジーを生み出す。また、新規事業あるいは起業への支援を行う。

⑧ ストーリーの魅力を絶え間なく刷新する

【現状と課題】

当圏域のゲートウェイ施設として位置付ける主要3館では、日本遺産のストーリーを前提とした説明に見直すとともに多言語化を実施することで、多様な方に理解していただける体制を整備したところである。一方で、ゲートウェイ施設で紹介する内容の見直しが単発的な対応で留まり、長期間にわたって変わらなければ、飽きられる要因となり、次第に来訪者が減少する結果となる。

【対策と取組】

- ・ 研究者および官民のゲートウェイ施設や博物館の学芸員と連携することで、構成文化財に対する新たな知見を見出し、その成果を博物館等での企画展の素材として活用することで、ストーリーの価値の絶え間ない刷新を図る。
- ・ 圏域の新しい情報を事務局が把握し新しい情報を継続して発信できる体制を拡充する。

(4) 実施体制

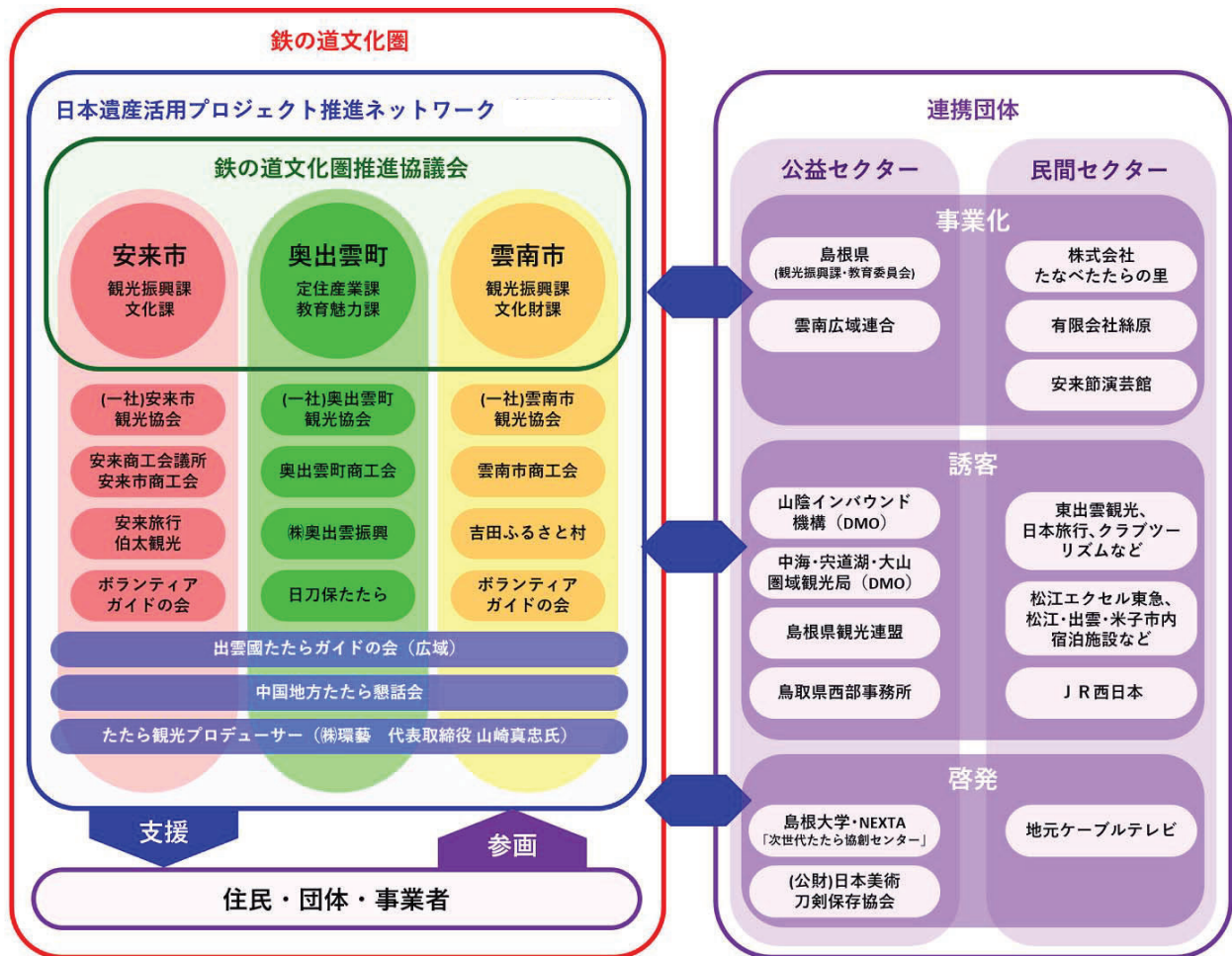
【実施主体】

鉄の道文化圏推進協議会（1987年発足）

- 総会：圏域内首長で構成。
- 企画調整会議：2市1町の担当課長で構成。拡大会議（随時）では必要に応じて観光・地域振興・文化財・産業振興・都市計画主管課長を参加させ、総合的な取り組みとする。
- 日本遺産活用プロジェクト推進ネットワーク

圏域内外を問わず積極的に民間団体・事業所の参画を進めていく。必要があれば専門部会等の設置を検討し、実践的な取り組みにつなげていく。

【推進体制図】



圏域の総人口が減少する中、ストーリーを深く理解する圏域住民の割合を高めることで、構成文化財の保護や観光ガイドなどの担い手の確保を目指す。

短期的には、来訪者の満足度の向上に資する人材育成のため、ストーリーの魅力を伝えるボランティアガイドや、ストーリーを深く理解した民間事業者を育成する必要があり、関心のある社会人を対象とした学習の場を提供する。

長期的には、将来的な担い手育成のため、圏域の子どもたちを対象としたふるさと学習を、スタートアップ期間に整備した媒体・ツール（DVD・紙芝居・児童書）を活用しつつ実施する。また、ストーリーの魅力の絶え間ない刷新が必要であり、研究者および官民のゲートウェイ施設や博物館の学芸員と連携することで、構成文化財に対する新たな知見を見出し、その成果を圏域住民に広く伝えるとともに、博物館等での企画展の素材に活用する。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

【組織体制の強化】

日本遺産事業を持続可能な取り組みとするための財源確保には、観光を通じた圏域経済の活性化が欠かせない。来訪者がもたらす恩恵が圏域全体に波及してこそ、日本遺産に対する圏域住民の当事者意識が高まり、日本遺産を支えていく機運が醸成されるためである。

圏域の観光を魅力化し、好循環を生み出すためには、産学官による幅広い取り組みが必要であり、令和6年には産学官が参画する日本遺産活用プロジェクト推進ネットワークの参画団体を拡大することで体制を強化した。この日本遺産活用プロジェクト推進ネットワークを通じて、ボランティアガイドによる来訪者への魅力的な説明、ストーリーを深く理解した民間事業者による商品開発やサービス提供、研究者とゲートウェイ施設の学芸員による構成文化財に関する研究の推進と企画展等での活用など、多様な取り組みを実施する。

また、将来的には、協議会事務局の運営体制の改善も必要である。現在の構成3自治体による持ち回りの運営体制から、第一段階として専属スタッフによる協議会の運営、第二段階として民間主体によるDMOへの協議会の運営の移管を検討し、自立・自走可能な推進体制づくりを検討していく。

【外部団体との協働・機能分担】

中海・宍道湖・大山圏域観光局（島根・鳥取5市、DMO）、山陰インバウンド機構（DMO）、圏域内の各観光協会、旅行会社との連携を強化し、モデルコースや新たなコンテンツ（個人・マニア向け体験など）の創出を行い、民間事業者が主体的に日本遺産を活用できるように継続して取り組む。

特に、中海・宍道湖・大山圏域観光局については、本圏域の日本遺産ストーリーと関係するエリアであることから関連地域として連携を強化する。隣接した都市部を有することから、圏域観光の拠点の一つと位置づけ、宿泊及び発着地として情報発信を強化し、誘客や域内消費につなげていく。

●DMO：販売、ガイドのマッチング、着地型ツアー造成等で連携

●圏域内観光協会：旅行商品、体験コンテンツの企画・販売

●民間旅行会社等：ストーリーを活用した商品造成

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

【文化財および景観の保存】

圏域のストーリーの魅力を高め、遺産として未来に残していくため、構成市町において文化財の調査研究、保存に取り組む。また、たたら製鉄は、圏域の景観や町並みにも大きな影響を与えており、その一部は日本遺産の構成文化財でもある。このため、景観や町並み保存、自然環境保護についても引き続き積極的に取り組む。

●文化財の調査・保存

雲南市

- ・菅谷たたら山内保存修理事業（建造物等の修理）平成24年度～令和4年度
- ・菅谷たたら山内防災施設整備事業（避雷設備、消火設備の整備）令和5年度～
- ・菅谷たたら山内保存修理事業（崩落した護岸石垣の復旧）令和6年度～令和7年度
- ・菅谷たたら山内及び関連遺跡の史跡指定に向けた調査 令和5年度～
- ・菅谷たたら山内総合文化調査 ※財団で実施中 平成29年度～

安来市

- ・市原たたら跡遺構確認調査（令和3年度～）
- ・史跡富田城跡整備事業および発掘調査事業（平成27年度～）
- ・和鋼博物館改修工事（令和5年度～）

奥出雲町

- ・櫻井家復旧工事（令和4年度～）
- ・文化的景観の継続調査（平成23年度～）
- ・奥出雲たたらと刀剣館改修工事（令和6年度～）

●景観の保全施策

- ・雲南市街なみ環境整備事業助成金交付要綱（平成17年4月1日）
田部家土蔵群のある吉田町本町通り地区の景観形成に関する支援制度。
- ・国選定重要文化的景観「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」（奥出雲町）

平成26年3月18日に文部科学省より選定。

- ・奥出雲町景観計画（平成24年4月1日）
- ・県立自然公園指定（構成文化財：龍頭が滝／八重滝、鬼の舌振、富田城跡）

【文化財等の活用】

来訪者のストーリーへの理解を促進し満足度を高めることを目的として、体験型コンテンツを充実する。たたら製鉄と関連した体験型コンテンツとして、日本刀鍛錬実演、日本刀保持体験、包丁研ぎ体験、天秤ふいご体験、たたら（ミニたたら・近代たたら）操業体験、ミニミニたたら（砂鉄をアルミの粉末で還元させて鉄をつくる体験）、鉄穴流し（砂鉄採取）体験、鉄師の家に伝わる献立の再現による鉄師の生活の追体験、などが考えられ、来訪者の意見をフィードバックしながら、体験内容の改善を図る。

●体験型コンテンツの充実

●民間事業者が行う事業に対する支援

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号1-A)

事業名	事業の全体統括を行う組織の整備
概要	計画を円滑に実施するべく、関係者間の調整を行う組織を整備する。また、民間企業との連携を強化するための組織体制を構築していく。

	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会の運営	鉄の道文化圏構成自治体の行政トップで目標等の共通認識を図り、強力なリーダーシップのもと事業を推進する。また、事業予算についても十分に確保する。	鉄の道文化圏推進協議会
②	日本遺産活用プロジェクト推進ネットワーク参画団体の拡大による組織強化	既設ネットワークの参画団体を拡大し、産官学の連携を強化することで、相乗効果を高める。また、同ネットワークに、たたら文化に関する専門知識と観光事業に精通した人材をアドバイザーとして配置し、ストーリーの更なる魅力化に取り組む。	鉄の道文化圏推進協議会、関係団体、民間企業
③	専属スタッフの任用	協議会運営を将来的に民間主体によるDMOへ移管することを目的に、第一段階として専属スタッフを任用し、現在の構成3自治体による持ち回りの運営体制から移行することで、長期目線に立った持続的な取り組みの実施を可能にする。	同上

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	鉄の道文化圏推進協議会が実施する事業に対しての行政以外の参画・協力団体(者)数	51 団体
2023		56 団体
2024		63 団体
2025	同上	66 団体
2026	同上	69 団体
2027	同上	72 団体
2028	同上	75 団体
2029	同上	78 団体
2030	同上	81 団体
事業費	2025年度：300千円 2026年度：300千円 2027年度：300千円	

継続に向けた事業設計	日本遺産関連事業費について、行政においてはふるさと納税、企業版ふるさと納税やガバメント・クラウド・ファンディング（GCF）等の活用を検討する。
事業費	2028年度：300千円 2029年度：300千円 2030年度：300千円
継続に向けた事業設計	民間事業者とともにふるさと納税で日本遺産に関連する返礼品を開発・出品してもらう。 民間事業者におけるクラウドファンディングでは、日本遺産を意識したクラウドファンディングでは協議会で支援する。

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	事業の進捗管理		
概要	計画の実施状況を把握し、環境の変化に合わせて目標達成手段を柔軟に変更できるよう、協議会等における情報共有や協議を定期的に行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	企画調整会議	鉄の道文化圏推進協議会企画調整会議では、構成3市町間の情報共有を定例化し連携を密にすることで事業調整を強化する。また、構成文化財の保護と活用のバランスを最適化するため、地域振興・観光・文化財主管課等とも連携しながら開催する。	鉄の道文化圏推進協議会
②	日本遺産活用プロジェクト推進ネットワーク	産官学で構成する日本遺産活用プロジェクト推進ネットワークを活用し、民間事業者の景況感やプロデューサー等からの提言等も踏まえつつ、来訪者の満足度と、圏域経済への波及効果を検証する。検証結果を取り組みに反映することで、事業効果を高める。	鉄の道文化圏推進協議会、関係団体
③			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	企画調整会議の開催回数		10回
2023			11回
2024			12回
2025	同上		12回
2026	同上		12回
2027	同上		12回
2028	同上		12回
2029	同上		12回

2030	同上	12回
事業費	2025年度：50千円 2026年度：50千円 2027年度：50千円	
継続に向けた事業設計	企画調整会議を毎月1回程度実施する。移動による負担を軽減するため、必要に応じてWEB会議システム等を活用する。	
事業費	2028年度：50千円 2029年度：50千円 2030年度：50千円	
継続に向けた事業設計	会議体の数は極力減らし、必要最低限かつ効率的な事業推進を行う各事業における民間事業者との協働においても必要に応じて協議会と民間事業者で協議を行い、民間事業者の負担を軽減する。	

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名	日本遺産を活用する人材の育成・確保		
概要	日本遺産を活用する人材の育成・確保のため、総合的な企画・立案を行うプロデューサーや事業実施を担うプレイヤーの組織化、既に地域で活躍している人材・事業者との連携等を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	【重点取組】ボランティアガイドの活躍の場の拡張	ゲートウェイ施設3館の来訪者に対する説明員としてボランティアガイドにも活躍いただくなど、ボランティアガイドの活躍の場を増やす。 観光タクシー運転手にボランティアガイドの研修を勧め、ガイドとしても活躍いただけるようにする。	鉄の道文化圏推進協議会、たたらガイドの会
②	【重点取組】プロデューサー・プレイヤーの発掘	各分野において既に地域で活躍している人材の把握に務めるとともに、新規事業あるいは起業への支援を行う。	鉄の道文化圏推進協議会、事業者、関係団体
②	日本遺産活用プロジェクト推進ネットワークの分科会設置	ネットワーク内に、商品開発や宿泊、博物館の魅力化など、分野別の分科会を設置することで取り組みを深化し、事業効果を高める。	同上
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	たたらガイドの会から説明を受けたことがある延べ人数		294人
2023			286人
2024			97人
2025	同上		300人
2026	同上		350人
2027	同上		400人
2028	同上		450人
2029	同上		500人

2030	同上	550人
事業費	2025年度：200千円 2026年度：200千円 2027年度：200千円	
継続に向けた事業設計	スキルアップを図りながらガイド料の適正化に取り組み、自走可能なガイド提供の体制づくりを目指す。	
事業費	2028年度：200千円 2029年度：200千円 2030年度：200千円	
継続に向けた事業設計	ガイドをゲートウェイ施設に常駐させ、これまで行政職員が担ってきたガイドをたたらガイドの会が行う仕組み作りをする。	

(7) - 4 整備			
(事業番号4-A)			
事業名	ゲートウェイ・モデルルート整備		
概要	日本遺産ストーリーを体験する上で、圏域の窓口となるゲートウェイ施設の整備を行い、来訪者が容易にその魅力を感じられるようにする。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	【重点取組】博物館等からフィールドへのシームレスな接続	ゲートウェイ施設と位置づける3施設「和鋼博物館」「菅谷たたら山内」「奥出雲たたらと刀剣館」から、圏域内に点在する構成文化財へ誘導できるよう、日本遺産ストーリーの解説板やモデルルート、関連情報等を展示する。	鉄の道文化圏推進協議会、各施設
②	【重点取組】モデルルート整備	3施設を起点に、サブストーリーを活用したモデルコースをつくり、来訪者への提案、誘導を図る。また、ゲートウェイ機能を補完するため、プロデューサーやプレイヤーの活用と連携を図る。	鉄の道文化圏推進協議会、たたらガイドの会
③	【重点取組】観光タクシーの利用促進及び近隣市町からのレンタカー利用の促進	運転免許がない来訪者を想定し、観光タクシーを利用していただくなど、移動手段の確保を図る。また、当圏域が広島県や鳥取県に隣接していることを活かし、近隣市町からのレンタカー利用による来訪手段の案内を改善し、レンタカー利用による来訪を推進する。	鉄の道文化圏推進協議会
④	観光利用を目的とした自家用有償旅客運送の可能性検討	観光タクシー空白地帯については、観光利用を目的とした自家用有償旅客運送の可能性を検討する。	同上
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	ゲートウェイ3館の入場者数		21,206人
2023			27,715人
2024			27,049人
2025	同上		27,250人
2026	同上		27,500人

2027	同上	27,750人
2028	同上	28,000人
2029	同上	28,250人
2030	同上	28,500人
事業費	2025年度：200千円 2026年度：200千円 2027年度：200千円	
継続に向けた事業設計	来訪者と特産品とのタッチポイントを増やし、購買の促進を図ることで、民間事業者の日本遺産事業への協力体制を構築する。	
事業費	2028年度：200千円 2029年度：200千円 2030年度：200千円	
継続に向けた事業設計	補助事業や各市町の単独財源を活用しゲートウェイ施設の改修や整備、魅力化、企画展、イベントの開催を行う。	

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号5-A)			
事業名	ストーリーを体感できる新商品の開発や既存商品の改良		
概要	地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらう事業により経済効果を生み出すため、ガイドツアー、体験コンテンツ、ストーリー関連商品の販売等を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	民間による観光商品の開発・改良	日本遺産のストーリーに沿って圏域の景観や文化が体感できる観光コースを作成し、DMO等とも連携しながら県外へも積極的に情報提供する。観光コースの作成にあたっては、教育旅行の素材としての活用も視野に、複数のコースを作成する。	協議会、民間事業者、日本遺産活用プロジェクト推進ネットワーク、各市町、外部団体
③	【重点取組】体験型コンテンツの充実	日本遺産を活用したアクティビティ(サイクリング等)や体験型コンテンツ(ミニたたら操業等)を、民間事業者や住民団体等の活動支援を行いながら充実する。	同上
④	【重点取組】たたら関連製品の販売支援	当圏域への訪問体験と関連付けた特別感が感じられる新商品の開発や既存商品の改良を行う。たとえば、たたら関連商品(玉鋼を利用した商品、たたら焔米、仁多米)について、プロモーションを支援する。また、奥出雲町では「奥出雲たたらブランド認証制度」により、玉鋼を主材料とする製品を認証し、価値を広く発信する。	民間事業者、雲南市、奥出雲町
⑤	【重点取組】来訪者が商品に接するタッチポイントの増加	ゲートウェイ施設における物販コーナーの拡充、および、ゲートウェイ施設から民間博物館や店舗などへの送客など、来訪者が商品に接するタッチポイントの増加を図る。	
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	関連製品数(含ツアー商品)		67件
2023			67件
2024			77件

2025	同上	80件
2026	同上	83件
2027	同上	86件
2028	同上	89件
2029	同上	92件
2030	同上	95件
事業費	2025年度：1,650千円 2026年度：1,650千円 2027年度：1,650千円	
継続に向けた事業設計	日本遺産を活用したお土産品の開発補助金や旅行商品造成補助金、たたらブランド推進により関連商品の開発造成を行う。	
事業費	2028年度：1,650千円 2029年度：1,650千円 2030年度：1,650千円	
継続に向けた事業設計	造成した商品はHPやSNS、イベントなどでPRを行い継続した販売ができるよう体制を整える。	

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	圏域内に対する普及啓発		
概要	地域内において日本遺産の認知・関心を高め、誇りに思えるようにするため、学校教育と連携した普及啓発、地域住民への普及啓発等を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	【重点取組】ふるさと学習における景観や文化を知る機会の創出	教育機関と連携しながらスタートアップ期間に整備した媒体(DVD・紙芝居・児童書)を活用し、ふるさと学習を強化する。また、学校教育で用いる教材を作成し、児童・生徒の理解深化を図る。	鉄の道文化圏推進協議会、各市町
②	【重点取組】市民研究員制度の創設と研究を通じた圏域の価値の再発見	圏域住民および持続的な関係を築いていたただける来訪者を対象とした市民研究員制度を創設し、自らの関心に基づいて構成文化財に関わる研究に取り組んでいただくことで、圏域に関する知識の研鑽と愛着の深化を図る。	同上
③	圏域住民を対象とした学習の場の提供	関心のある社会人を対象とした学習の場を定期的に設け、誰でも学ぶ機会を作ること、たたらに理解のある圏域住民の裾野を広げる。	同上、外部団体
④	【重点取組】構成文化財の研究を通じたゲートウェイ施設や博物館等での継続的な企画展の実施	研究者およびゲートウェイ施設や博物館の学芸員との連携により、構成文化財に対する新たな知見を見出し、その成果を博物館等での企画展の展示に活用することで、圏域住民の継続的な関心を喚起する。	同上、外部団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	島根県学力調査における、「地域のことについて調べたり、調べたことを発表したりするなどの学習に取り組んでいる」と回答した児童の割合		63.9%
2023			58.7%
2024			47.9%

2025	同上	70.0%
2026	同上	72.0%
2027	同上	74.0%
2028	同上	76.0%
2029	同上	78.0%
2030	同上	80.0%
事業費	2025年度：1,000千円 2026年度：1,000千円 2027年度：1,000千円	
継続に向けた事業設計	自治体・施設間の連絡調整により、単独開催の負担減を図りながら効率的な学習機会の提供を行い、継続を図っていく。	
事業費	2028年度：1,000千円 2029年度：1,000千円 2030年度：1,000千円	
継続に向けた事業設計	学校行事のみならず地域活動においても日本遺産に関連する学習や活動を支援する。	

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	情報発信体制の整備による誘客強化事業		
概要	当圏域のストーリーを高く評価し持続的な関係を築いていただける圏域のファンから、口コミやSNSを通じて信頼性の高い情報を拡散することで、認知を拡大し、ファンがファンを呼ぶ好循環を生み出す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	【重点取組】 口コミやSNSを通じた情報発信の促進	圏域住民や当圏域のファンが、日本遺産に関する信頼性の高い情報を口コミやSNSで発信することを支援し、潜在来訪者が圏域情報に触れる機会を増やす。	鉄の道文化圏推進協議会、民間事業者、観光施設
②	Webサイトの継続的な更新	圏域に関心を持った潜在来訪者が、インターネットで検索した際に、圏域を魅力的に感じ、かつ、訪問までのハードルも低く感じていただけるよう、協議会で設置している日本遺産「出雲国たたら風土記」webサイトにてきめ細やかな情報提供を行う。	同上
③	圏域内情報の集約化	情報発信のマネジメントのため、事務局の情報のハブ機能を強化し、日本遺産やたたらに関する情報集約を図る。	鉄の道文化圏推進協議会、関係団体、民間企業
年度	事業評価指標		実績値・目標値(人)
2022	鉄の道文化圏が運営するSNS(インスタ		0
2023	グラム・X・FaceBook) フォロワー数		143
2024	※旧アカウント除外。 Instagram、FaceBook: 2023~ X: 2024~		657
2025	同上		800
2026	同上		1,000
2027	同上		1,200
2028	同上		1,400
2029	同上		1,600
2030	同上		1,800
事業費	2025年度: 600千円 2026年度: 600千円 2027年度: 600千円		
継続に向けた事業設計	SNS等の無料媒体を活用していくとともに、HP等へは有料広告掲載等を検討していく。		
事業費	2028年度: 600千円 2029年度: 600千円 2030年度: 600千円		
継続に向けた事業設計	ソーシャルメディアとともに、マスメディアの取材には積極的に協力を行い、全国への露出度を高める。		